

# 研究計画書

## 1. 研究課題 企業の業績・生産性とその従業員のウェルビーイングの関連に関する観察研究

### 2. 研究の概要

#### 2・1 目的

今日、企業が経営戦略の一環として、従業員の健康・ウェルビーイングに積極的な投資を行い、職場の活性化や労働生産性の向上等を図る、健康経営の取組が進んでいる。

健康経営を実践する中小企業の従業員に関して、不規則な生活習慣やストレスなどの健康リスクが高いほど、労働生産性の損失が大きいことが示されている<sup>1</sup>。また、73か国の企業を対象としたメタ解析では、従業員のウェルビーイング（従業員満足度）が高い組織は、収益性や生産性、顧客のロイヤリティが高く、従業員の離職率が低いことが報告されている<sup>2</sup>。

しかし、日本では企業を対象に、企業の業績と従業員のウェルビーイング等の関連を検証した研究は進んでいない。

そこで本研究では、日本企業を対象に、企業の業績・生産性と、その従業員のウェルビーイングの構成要素（心身の健康や仕事のやりがい、職場の心理的安全性、自己効力感など）との関連を明らかにする。

<sup>1</sup> Muramatsu K, Nakao K, Ide H, Furui Y. Testing the Construct Validity and Responsiveness of the Single-Item Presenteeism Question. J Occup Environ Med.2021;63(4): e187-e196.

<sup>2</sup> Krekel, C. W., G.; de Neve, J.-E. (2019). Employee Wellbeing, Productivity, and Firm Performance. SSRN Electron. J.

#### 2・2 方法

東京大学とアクサ生命保険の共同研究契約書に基づき、以下の方法により研究を行う【別紙1参照】。

##### 1) 対象者

・アクサ生命保険が2022年～2024年に、健康経営を支援した中小企業とその従業員を対象とする（累計約15,000社、従業員約450,000人）。

・企業単位のユニークなID（アクサ生命保険管理用）を付与し、各社の業種や所在地等の基本情報を取得する。

##### 2) 無記名自記式アンケート調査【別紙2, 3, 4参照】

・各企業の希望のスケジュールにて、アクサ生命保険の健康習慣アンケート（無記名自記式アンケート）を年1回実施している。

各企業の支援開始年により、過去に最大3回、アンケートに回答した従業員がいる。

・アンケート調査は、オンラインアンケートツール（SurveyMonkey）を使用して実施している。

・アンケート調査の設問は以下の項目である。

a. 労働生産性の損失（プレゼンティーズム、アブセンティーズム）

b. 属性情報（性別、年代、仕事内容）

c. ウェルビーイングの構成要素（心身の健康や仕事のやりがい、職場の心理的安全性、自己効力感など）

##### 3) 企業情報

・対象企業に関して、アクサ生命保険が帝国データバンクより収集した企業情報を利用する。

・収集時期：2024年4月以降、対象企業の過去の企業情報を収集する。

・企業情報の収集・活用を含め、本研究に関する情報について、東京大学未来ビジョン研究センターデータヘルス研究ユニットのHPで開示し、対象企業より申し出があれば、該当の企業情報を使用しない。

・利用する企業情報：企業コード、データ取得タイミング、業績売上高、業績申告所得額、業績税引後利益、評点、従業員数を取得する。

・利用する企業情報の対象期間：2022年1月1日より2024年1月1日まで、6か月間隔で取得する。

・企業コード（帝国データバンク管理用）と企業ID（アクサ生命保険管理用）を紐づけることにより、各企業の企業情報とアンケート回答情報を突合する。

##### 4) 解析方法

###### a. 従業員レベルの解析方法

・2024年のアンケート回答情報を用いた横断分析を行う。

・多重ロジスティック回帰分析により、属性情報を調整変数として、労働生産性の損失とウェルビーイングの構成要素の関連について検証する。

###### 【横断分析】

従属変数：プレゼンティーズム、アブセンティーズム

独立変数：ウェルビーイングの構成要素（心身の健康や仕事のやりがい、職場の心理的安全性、自己効力感など）

###### b. 企業レベルの解析方法

・ウェルビーイングの構成要素の回答情報を、カットオフ値を基に2値変数に変換する。

・各年度のアンケート回答情報に関して、企業IDを基に、企業単位のアンケート回答情報を以下の通り集計する。

労働生産性の損失：代表値、健康関連要因等の 2 値変数：良い状態の該当割合

- ・企業コードと企業 ID を基に、企業単位のアンケート回答情報に、業績売上高等の企業情報を突合する。
- ・2024 年のアンケート回答情報のみを用いた横断分析、および、過去のアンケート回答情報を含めた縦断分析を行う。
- ・多重ロジスティック回帰分析により、属性情報を調整変数として、労働生産性の損失や企業業績とウェルビーイングの構成要素の関連について検証する。

**【横断分析】**

従属変数：2024 年の各企業のプレゼンティーズム、アブセンティーズムの代表値、および売上高、従業員規模など

独立変数：2024 年のウェルビーイングの構成要素の良い状態の該当割合

**【縦断分析】**

従属変数：2022 年～2024 年の各企業のプレゼンティーズム、アブセンティーズムの代表値、および売上高、従業員規模などの変化量

独立変数：2022 年～2024 年のウェルビーイングの構成要素の良い状態の該当割合の変化量

c. マルチレベル分析

- ・プレゼンティーズムや売上高等、企業間の級内相関を確認する。
- ・級内相関が 0.1 以上の場合、上記の横断分析にマルチレベル分析を適用する。

実施・収集期間	2024年4月～2026年3月	研究期間	部局長承認後3年間
---------	-----------------	------	-----------

2・3 対象及び資料等

1) 対象（研究参加者の属性と人数等）

・2022 年～2024 年までに、アクサ生命保険が健康経営を支援した企業（累計約 15,000 社）の従業員約 450,000 人とする。

・2022 年、2023 年は各年、約 5,000 社（1 社あたりの従業員数約 30 名、計 150,000 人）の健康経営を支援した。2024 年についても同程度の支援状況であれば、3 年間（2022 年～2024 年）で累計約 15,000 社（従業員約 450,000 人）が対象となる。

・15 歳以上 65 歳未満の年齢に該当する就業者約 450,000 人であり、性別については不問である。

・過去（2022 年～2023 年）について、各年で約 5,000 社（1 社あたりの従業員数約 30 名、計 150,000 人）の健康経営を支援しています。

2) 試料・情報

・無記名自記式アンケートの回答情報：アンケートの内容は、従業員の心身の健康や仕事のやりがい、職場の心理的安全性、自己効力感などに関する情報や属性情報などである。アンケート回答率を 80%と仮定した場合、2024 年年末までに、最終的に約 360,000 人の有効回答が得られる予定である

・企業情報（企業担当者の入力情報）：対象企業の業種や所在地等の基本情報

・企業情報（帝国データバンクの情報）：企業コード、データ取得タイミング、業績売上高、業績申告所得額、業績税引後利益、評点、従業員数

- ・分析結果のみ、共同研究契約に基づきアクサ生命保険と対象企業にフィードバックする。

2・4 研究参加者の実体験

・参加企業の従業員は各社の希望による時期に無記名自記式アンケート調査に回答する。

・オンラインアンケートの回答画面の主旨説明文を読み、調査協力を同意した上で質問に回答する。所要時間は、一人あたり合計で最大 10 分である。

### 3. 研究を実施する施設とその役割

#### 1) 該当する施設名とその役割 (別途添付可)

- ① インフォームド・コンセントを受ける施設：各事業所
- ② 情報を収集する施設：各事業所
- ③ 情報を匿名化する施設：匿名化されたデータとなっているため匿名化の作業はない
- ④ 情報を解析する施設：伊藤国際学術研究センター4階 共同研究室 東京大学未来ビジョン研究センターデータヘルス研究ユニット、アクサ生命保険 白金高輪本社ビル
- ⑤ 情報を保存する施設：伊藤国際学術研究センター4階 共同研究室 東京大学未来ビジョン研究センターデータヘルス研究ユニット、アクサ生命保険 白金高輪本社ビル

#### 2) (該当する場合) 学外施設での対応とその状況 (別途添付可)

・各事業所の従業員が、アンケート調査の最初の画面にて回答情報の利用目的を読み、アンケートの回答完了をもって、回答情報の提供に同意したものとしている。【別紙4参照】

・各事業所の代表者、又はそれに相当する担当者が、アクサ生命保険の健康習慣アンケートへの参加を承諾したことで、アンケート回答情報の提供に同意したものとしている。【別紙2参照】

・本学の役割として、アクサ生命保険との共同研究契約書に基づき、研究計画・実施に関する助言や、データ解析および学会・学術雑誌の発表を行う。【別紙1参照】

・研究従事者は、新型コロナウイルス感染対策を目的に、研究責任者が承諾した自宅等の事業場においても情報を解析する。

### 4. 研究における倫理的配慮

#### 4・1 インフォームド・コンセント

##### 1) 実施方法

アンケート調査に関しては、本研究の趣旨、個人情報の保護、不利益等について説明文に明記の上、回答をもって同意したこととしている。

- 2) 特に倫理的な配慮を必要とする研究参加者への配慮の有無と対応策 → あり (内容を記入) なし  
参加者には一部未成年を含むが就労者であるため代諾者をたてる等の配慮は特に行わない。

#### 4・2 個人情報保護

- 1) 本学における個人情報の有無とその種類 → あり なし

回答者属性に関する調査項目に、氏名、生年月日など、特定の個人を識別することができる情報は無い。

- 2) 本学における個人情報保護の方法

- 3) 研究終了後の個人情報の取扱 (試料・情報に個人情報が含まれる場合は除く)

#### 4・3 試料・情報の取扱

アンケート調査結果のデータは、研究期間終了後10年間保管し破棄する。

#### 5. 安全の確保

##### 1) 研究によって研究参加者に生じうる危険や不快等

- ・事業主よりアンケート調査の回答、すなわち研究への参加を強要されるリスクがある。

##### 2) 危険や不快等への対応策

- ・アンケート調査の最初の画面にて、回答情報の利用目的を明記の上、利用目的に同意しない場合はアンケートを終了することを促し、回答は任意であることを伝えている。
- ・アンケートデータは分析結果のみ、個人が特定できない状態で対象企業へフィードバックするため、参加者へ不利益が発生することはない。
- ・アンケートの回答は業務時間内に行ってもらうが、参加者への給金等不利益がないように事業主に配慮を促している。

#### 6. 備考

研究参加者への謝礼の有無： なし あり

研究経費の内訳：令和6年度 共同研究費（アクサ生命）【別紙1参照】

企業等からの資金・装置等の供与の有無： なし あり

利益相反の有無： なし あり

その他：